



言論NPOアンケート 2020

グローバル課題・ 国際協調に関する 専門家アンケート

2020年9月4日

特定非営利活動法人 言論NPO
The Genron NPO

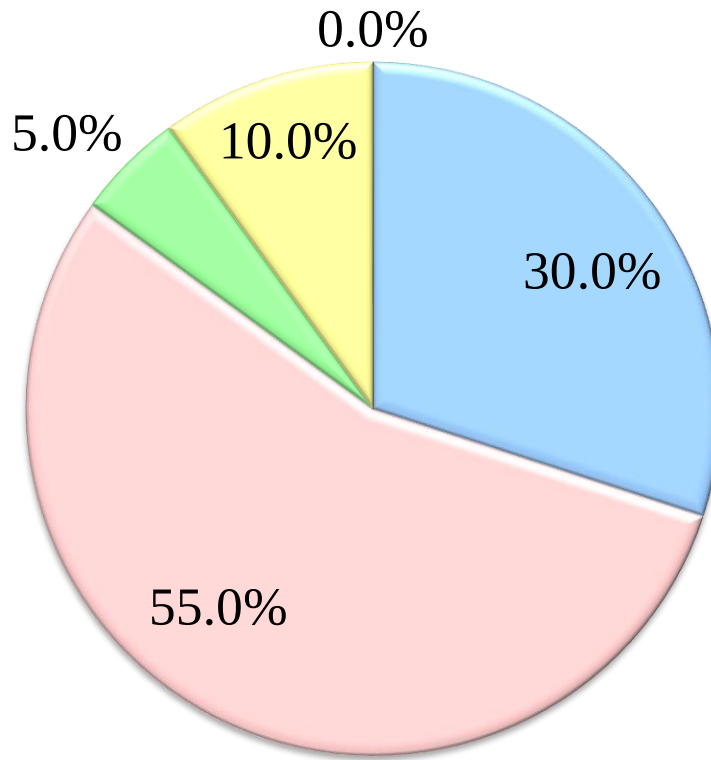


【コロナ禍の国際協調の現状評価】

あなたは、新型コロナのパンデミックの中、国際協調体制の現状をどのように見えていますか。

(単数回答)

2020年 N=20



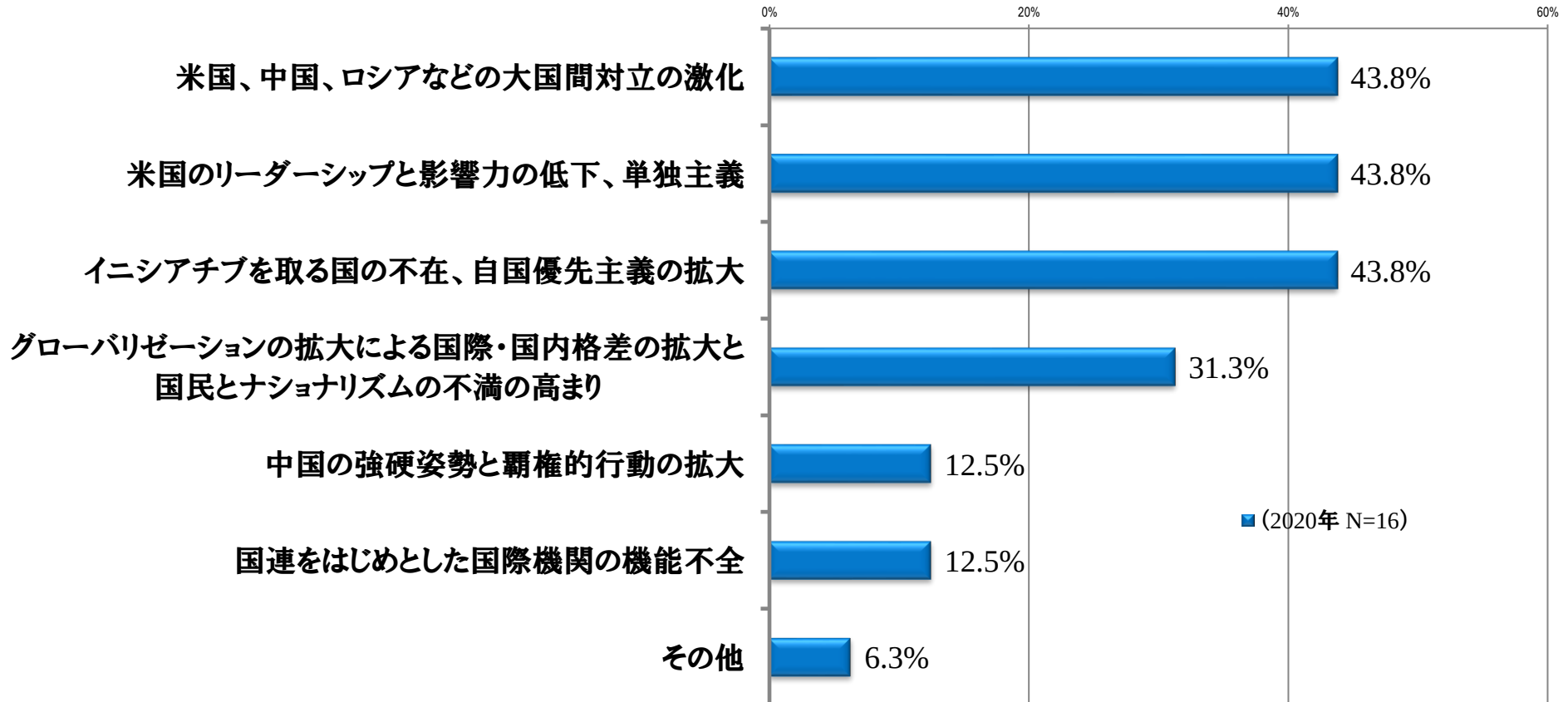
- 国際協調体制は何とか機能している
- 国際協調体制は崩壊しつつある
- これまでも国際協調体制は機能していなかった
- その他
- 無回答

「その他」回答

- ・イシューによって異なる
- ・機能と崩壊がせめぎあい拮抗している

【国際協調推進上最大の障害】

（前問で、「国際協調体制は崩壊しつつある」、「これまでも国際協調体制は機能していなかった」と回答した方へ）
国際協調を進める上で最も障害になっている要因は何だとおもいますか。（2つまで）



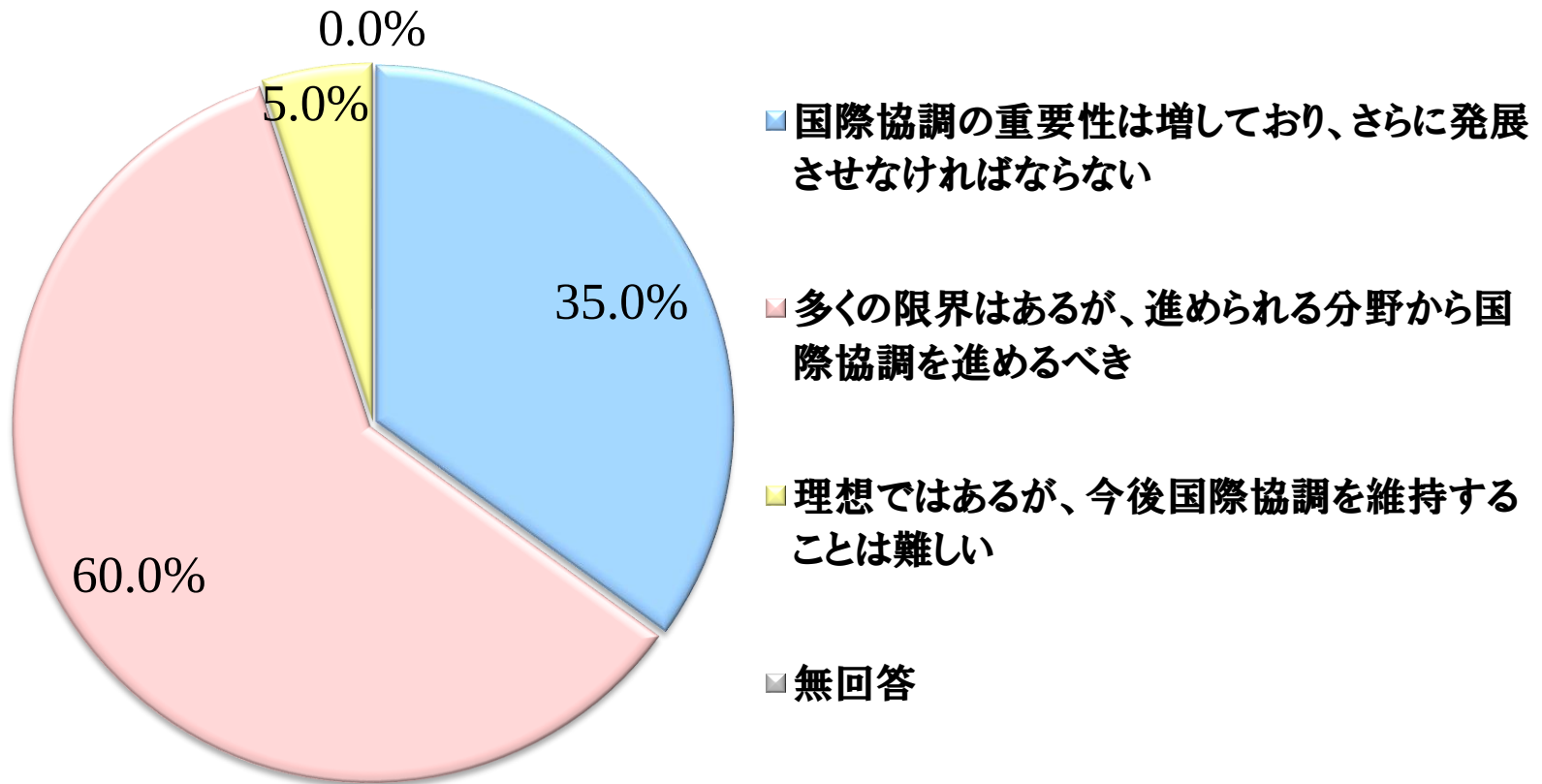
「その他」回答

・リベラル国際秩序に背を向ける地域大国、ミドルパワーの出現・増加

【ポストコロナの国際協調の行方】

あなたは、コロナ後の国際協調について、どのように考えますか。（単数回答）

2020年 N=20



【国際協調の現状について、最も懸念していること 1/2】

国際協調の現状について、あなたが現在最も懸念している問題は何ですか。（自由記述）

- 米中対立激化
 - ・ 米中対立の激化
 - ・ 米中対立、トランプ政権が続くかどうか
 - ・ 米中対立（特に政治体制等の価値をめぐる対立）
 - ・ 米国と中国の対立激化
- 米政権の動向
 - ・ トランプ大統領再選の危険
 - ・ アメリカの姿勢
- 国内世論の変化、国内政治の変化・自国第一主義
 - ・ 自国主義とポピュリズム
 - ・ 国際協調がもたらす利益についての各国国民の懐疑と無関心。
 - ・ 各国に生じている独裁主義的な内政と民主主義の衰退
 - ・ 本当に困っている人が、放置されること
 - ・ 対外強硬姿勢を演じることが国内支持を容易に集めやすいというネット政治環境
- 中国の強硬姿勢
 - ・ 共産党支配の中国の台頭
 - ・ 中国の覇権主義的行動
 - ・ 中国の香港圧政による西側諸国との対立がどこに落ち着くか。

【国際協調の現状について、最も懸念していること 2/2】

国際協調の現状について、あなたが現在最も懸念している問題は何ですか。（自由記述）

● その他

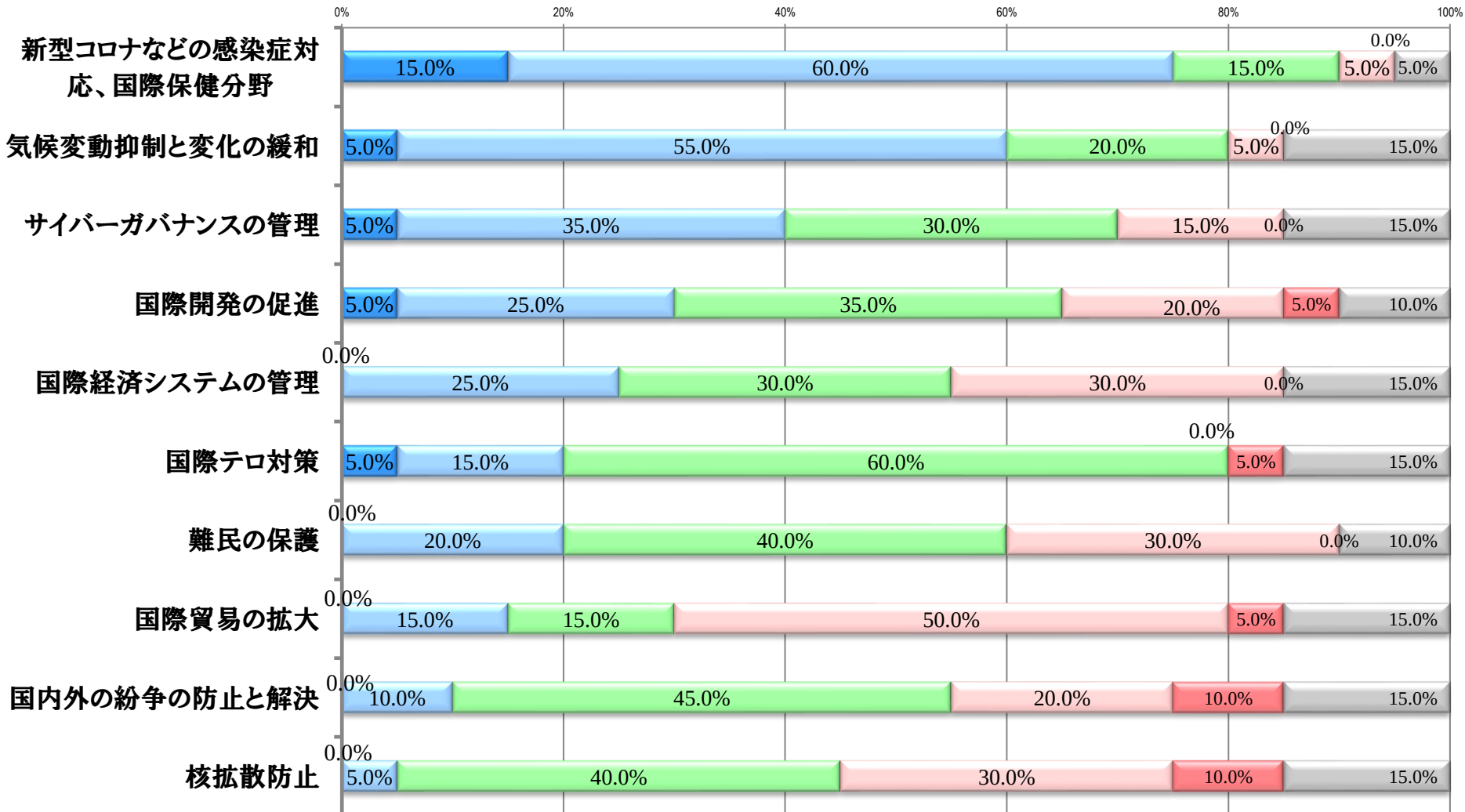
- ・ 途上国の社会課題への無関心の増大
- ・ 質問2に関連しますが、リーダーシップをとる国・組織の不在
- ・ やはり一国主義の台頭と、新興国による既存秩序への挑戦でしょうか。
- ・ コロナ渦に対応できる十分な資源や政策実施能力が不足している国に対して、支援も十分にできない状態が生まれること
- ・ 地域内協力・紛争防止の不機能、地域内での緊張の高まり(中東、東アジアなど)、軍事介入の増加
- ・ WTOの機能不全、G7の結束のゆらぎ

【個別課題に関する国際協調の見通し】

あなたは、以下のグローバル分野について、今後、国際協調は進展すると思いますか。

(それぞれ単数回答)

■ 進展する ■ ある程度進展する ■ 変わらない ■ 一部では後退する ■ 後退する ■ 無回答



【個別課題に関する国際協調の見通し（理由） 1/2】

前問で、そのように判断した理由で特に強調したい点をお書きください。（いずれの分野でも可、自由記述）

大統領選の行方による

- トランプが再選される場合と、バイデンが選ばれる場合で大きく異なるので、点数はつけられない。
- 米大統領選の結果にもよるが、国際協力でリーダーシップを取る国がない。
- 以上は秋の大統領選挙でバイデンが勝つというシナリオです。
- トランプ大統領が再選されるかどうかでかなり左右される。
- 米国でバイデン民主党政権になると考えられ、ある程度の進展が期待できる。

自国第一主義が広がる

- 自国の問題への注力が必要となり、国際協調に本格的に取り組めない。
- 今後しばらく国際経済の停滞が続き各国の余裕がなくなる（自国中心主義が高まる）ため。
- 誰もが反対しにくいESG、SDGs以外の分野では対外強硬派を持て囃す国内世論を無視しにくい状況が続くそう。
- 先進国の自国主義の蔓延
- 自国中心主義の先鋭化、地域内秩序の弱体化、経済安全保障の優先度増加

米中対立激化

- 米中対立の激化と反グローバリズムの台頭により、国際協調より各国の国益優先主義がより一層強まっていくと思われるため。
- アメリカと中国の動向次第と考えていて、両国が既存の国際秩序に利益を見い出せば、現状維持か改善がなされ、一方のみが利益を見い出せばやや後退、いずれも利益を見いださなければ大きく後退するのではないのでしょうか。日本・欧州が国際協調を重視しても、その傾向は変わらないのではないのでしょうか。

【個別課題に関する国際協調の見通し（理由） 2/2】

前問で、そのように判断した理由で特に強調したい点をお書きください。（いずれの分野でも可、自由記述）

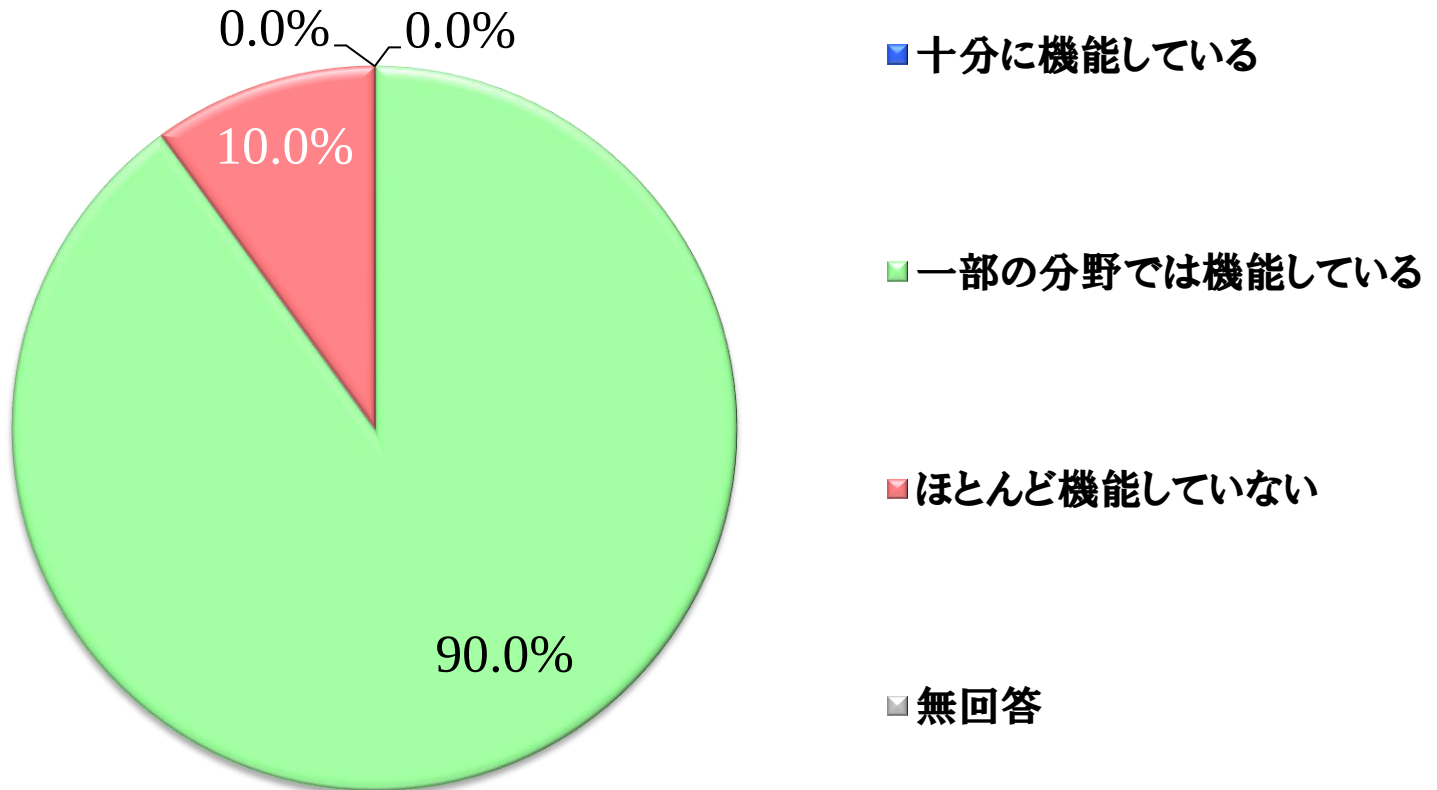
- 一部の国が引き続き核保有の野心を持ち続ける限り全体的な進展は難しい
- グローバリズムには、修正が必要なるも、グローバリゼーションは不可避免的故。
- 「今後」をどの程度の長さで捉えるかによって回答は変わります。
- コロナを契機としてグローバルな課題の相互関連性が認識されているから。

- 経済・貿易・投資分野については、国際機関を中心とした協調は既に機能不全。
- これまで中心的役割をになっていた米国が消極的、WHOの存在感の低下
- 開発分野では援助の安保化 (securitization) が進む為。
- 気候変動は技術のトレンドが再エネ、蓄電池に向かっているので、エネルギー経済の新しい秩序が生まれると思う。

【国連は機能しているか】

国連は今年で創設75周年を迎えます。あなたは、国連が世界の平和・繁栄、グローバルの課題の解決のために機能していると思いますか。（単数回答）

2020年 N=20



【国連は機能しているか（理由）】

前問で、そのように判断した理由をお書きください。（自由記述）

「一部の分野では機能している」と回答した方の理由

- 安保理は機能していないが、そのほかの分野では実績がある。
- 安全保障理事会の常任理事国非決権が国連機能の大きな障害となっている。十分に機能している分野はある。
- 合意形成できなくても、少なくとも意見交換の場として機能。
- 国連安全保障理事会では常任理事国に拒否権があり、実効性のある行動がとれない場合がある。
- 国連がグローバルな課題への関心を喚起しており、難民保護などではある程度機能している。
- 国連に大きな権力を持たせることは危険な面もあり、その制約の範囲内では無いよりあった方が良い程度には機能していると思う。
- 国家単位による意思決定は、国益がグローバルな利益を超越することもあります。他方で、国際秩序を単独で形成しえない中規模以下の国家にとっては、国連を中心とする国際秩序はやはり有用で、よりよく機能するために貢献するインセンティブがあるかと思います。
- P5マター以外の分野では、一定の成果あり。
- 20年前、アナン事務総長時代と比べると国連の存在感が国際政治・安全保障の領域では薄まっている。しかし、リアリズムが薄い領域では国連は依然として機能している。
- 大国政治（P5）の関心外分野では一部機能している。
- SDGsの設定と推進のための環境整備は国連なしにはできなかった。
- 国際秩序における原理原則の提示・共有という点では機能しているが、implementationには大きな課題を抱える。
- 対先進国では苦戦しているように見えるが、いわゆる途上国に対しては引き続き影響力が大きく重要な存在であることに変わりはない。
- 100点満点の状態というものは想定できない（より良い状態は青天井に存在しうる）一方で、存在しているだけでレバレッジを効かせているという効用もあると考えるからです。
- 様々な局面で、最悪の事態を避けることに貢献しているから。
- 気候変動問題では国連の存在は十分とはいえないものの有意義に働いている。
- 環境問題や自由貿易、PKOの分野でそれなりに機能。
- 機能しているとは、解決するために機能しているのではなく、課題を共有する場として機能している

「ほとんど機能していない」と回答した方の理由

- 国連からの声が、まったく聞こえず、存在感自体が感じない
- 国連は先の大戦での戦勝国連合であり、元来対立的性質を有している。

【最も改革が求められる国際機関はどこか、どのように改革すべきか】

国連も含めた様々な国際機関の中で、最も改革が求められる機関はどこですか。また、どのように改革すべきかについても簡単にお答えください。（自由記述）

安保理

- 安保理。常任理事国の拡大。ただし、可能性は少ない。
- 1. 安全保障理事会の議決制度改革。2. UNFCCCの全会一致原則。
- 安保理改革。
- 安保理
- 安全保障理事会、しかしこれは本当に難しい。
- 国連安保理の改革。常任理事国として、日独印の三カ国を追加する必要がある。
- 安全保障理事会
- 安保理 (あまりにも異なるタイプの国家がメンバーとなり、議題重要であるほど機能し得ないように思います)

国連事務局

- 国連事務局 特に国連事務総長の権限の弱体化を防ぐ措置

他国際機関

- WTO 現時点では事務局長が決まっておらず、紛争処理も機能していない。少なくとも機能不全に陥らないような改革を行うべきだが、意思決定のしくみを改革するのは難しい。
- OECD。先進国クラブとしての位置付けでは存在意義に早晚限界が来るだろう。新興国・途上国も巻き込んだシンクタンクへと変貌していくことが望ましいのではないか。
- WTO: 現状を踏まえた新ルールが必要。
- WTO 自由貿易による格差拡大効果の軽減のための措置の推進。
- WTO改革。紛争解決手続きの正常化。非市場的慣行・政策の是正。途上国の定義の明確化。
- WHO より柔軟で現実的な体制へ改革するべき。
- WHO: (例えばCOVID-19の) 予防に関する判断・発信が遅い。エビデンスベースの知見を集約・整理・判断・発信する仕組みを迅速かつ透明性のあるものに変える必要あり。
- 全ての国際機関が形骸化している課題解決機能を強化すべき。
- わかりません。

【国際協力を進める上で、日本は何をすべきか】

あなたは、様々なグローバル課題への国際協力を進める上で日本に求められることは何であると思いますか。（自由記述）

- 各国間の意見調整。国内政治システムを考えるとリーダーシップ発揮は無理。
- 国際問題を考える国内論壇の発展。
- 世界が共に解決に向けた行動をとれるよう対話を促進する。
- アメリカを国際協調に引き戻し、中国に国際ルールを守らせる役割。
- 米中の調停、キリスト教世界とイスラム教世界の調停。

- 強いリーダーシップは難しい、それよりはlike minded countryとの連携や大国間の緩衝材的役割。
- 米国以外の先進国、独仏イタリア、カナダと、他の民主主義国家をまとめて、国際協調の仕組みを整備するリーダーシップを取るべき
- 多国間の協力によりどのような具体的な利益がもたらされるのかについての理解を各国に求めること
- 平和主義の情報発信。
- 欧州やANZASとの連携構築、ASEANとの連携構築により、一国主義と中国を牽制し、リベラルな価値の後退を防ぐこと。
- 自由・開放・多国間主義に基づくルールに則る国際経済システムの維持・構築を積極的に進める。

- 安全保障の専門家として、こういうことを言っているのか分かりませんが、日本の国力や人口減を考えると以前のように莫大な資金を国連に回せる余裕がないと思います。よって、スウェーデンやノルウェーなどのように質で勝負する戦略がもっと重要かと思います。
- 日米同盟を強化しつつ、日本の外交・安全保障上の自立を強化していくこと。
- ヒト、カネ、情報・技術の提供。
- 世界のあるべき姿についての哲学を打ち出すこと。
- グローバルな価値と国益が一致するような方向で国内の改革を進めること。
- リーダーシップ
- 国際的な流行（例えばSDGsなど）にやみくもに乗っかるのではなく、自国の足下において直面し、解決に向き合ってきた課題を特定した上で、そうした課題を解決してきたプロセスを分析し、エビデンスに基づいた地道な貢献を行っていくこと。
- 資金協力を維持するとともに、人間の安全保障と言った理念をもっと強く発進すること。

●ご回答者(20名)：

内野 逸勢（株式会社大和総研金融調査部主席研究員）
江守正多（国立環境研究所地球環境研究センター副センター長）
片上慶一（株式会社国際経済研究所理事長）
河合正弘（東京大学公共政策大学院名誉教授）
川口貴久（東京海上日動リスクコンサルティングプリンシパルリサーチャー）
工藤泰志（言論NPO代表）
小塚 郁也（防衛省防衛研究所政策研究部防衛政策研究室主任研究官）
小林誉明（横浜国立大学准教授）
坂元晴香（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学講座特任助教）
佐藤寛（ジェトロ・アジア経済研究所研究推進部上席主任調査研究員）
志賀裕朗（JICA緒方研究所上席研究員）
滝澤三郎（東洋英和女学院大学名誉教授）
西山裕也（GR Japan 公共政策マネージャー）
東大作（上智大学グローバル教育センター教授）
藤野純一（公益財団法人地球環境戦略研究機関都市タスクフォース プログラムディレクター）
山岡浩巳（フューチャー株式会社取締役）
近藤久洋（埼玉大学教授）
その他、国内の研究者数名の方（匿名希望）にご回答いただきました。

ご協力いただきありがとうございました。